

聖徒伝 156  
後北白河天皇

# 「滅びの時代の 希望はどこか」

列王記 II 24～25章

バビロン捕囚

## アウトライン

### 0. イントロダクション

I. エジプトの侵略 23:31～37

II. バビロニアの侵略 24:1～12

III. バビロン捕囚 25:1～30

### IV. まとめと適用

滅びの時代の希望は

主の約束にしか見いだせない



バビロンのイシュタル門



【無垢の時代】

天地創造

【良心の時代】

墮罪  
~大洪水

【人類統治の時代】

バベルの塔事件

【約束の時代】

アブラハム  
~ヤコブ

【律法の時代】

イスラエル王国時代  
メシア初臨

【恵みの時代】

聖霊降臨  
世界宣教  
メシア再臨

【御国の時代】

千年王国  
大審判  
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

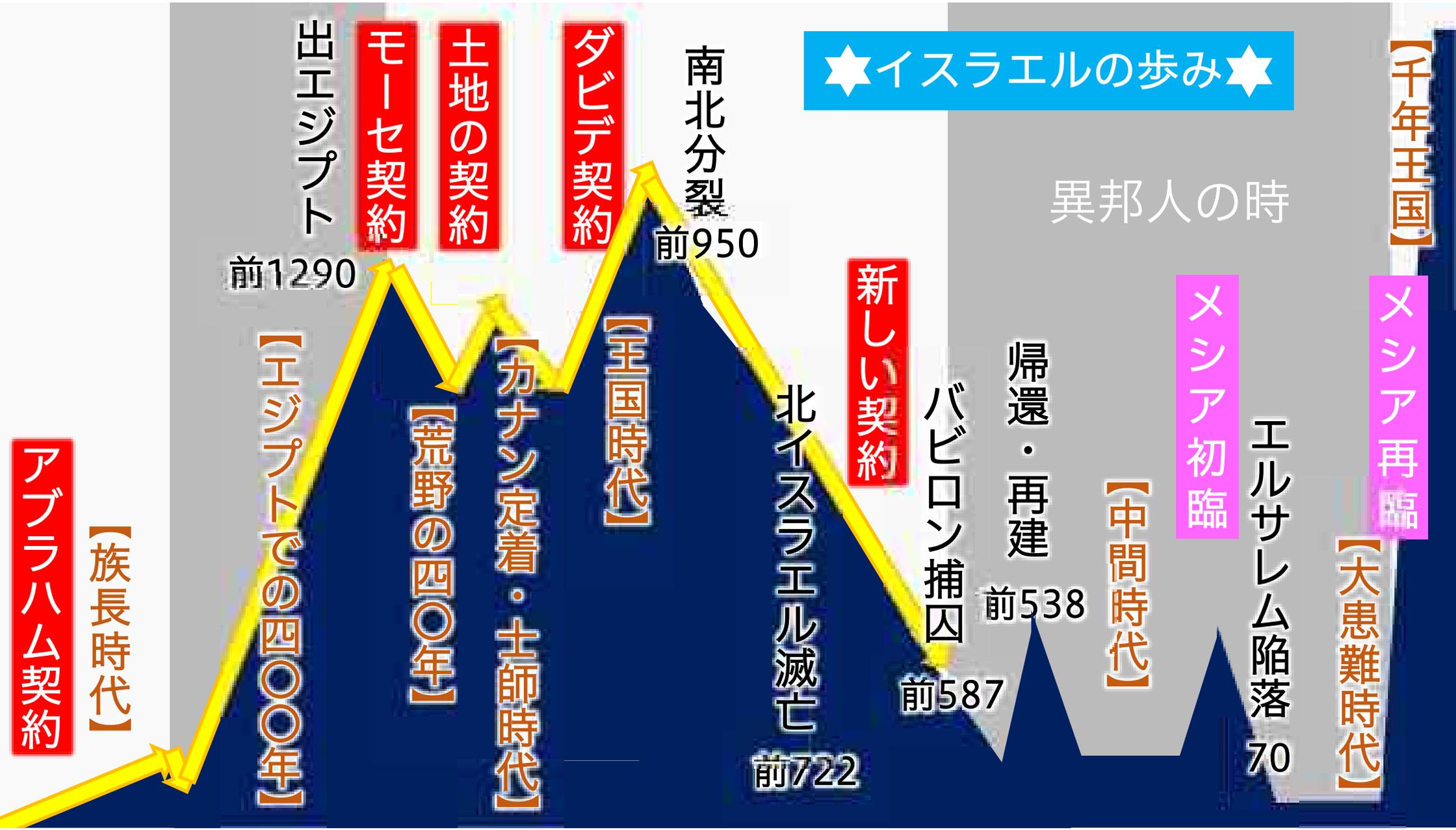
神の約束こそが  
その時代の守り

過去

現在

未来

★イスラエルの歩み★



アブラハム契約

【族長時代】

【エジプトでの四〇〇年】

モーセ契約

【荒野の四〇年】

土地の契約

【カナン定着・士師時代】

ダビデ契約

【王国時代】

南北分裂

北イスラエル滅亡

新しい契約

バビロン捕囚

前587

帰還・再建

前538

【中間時代】

メシア初臨

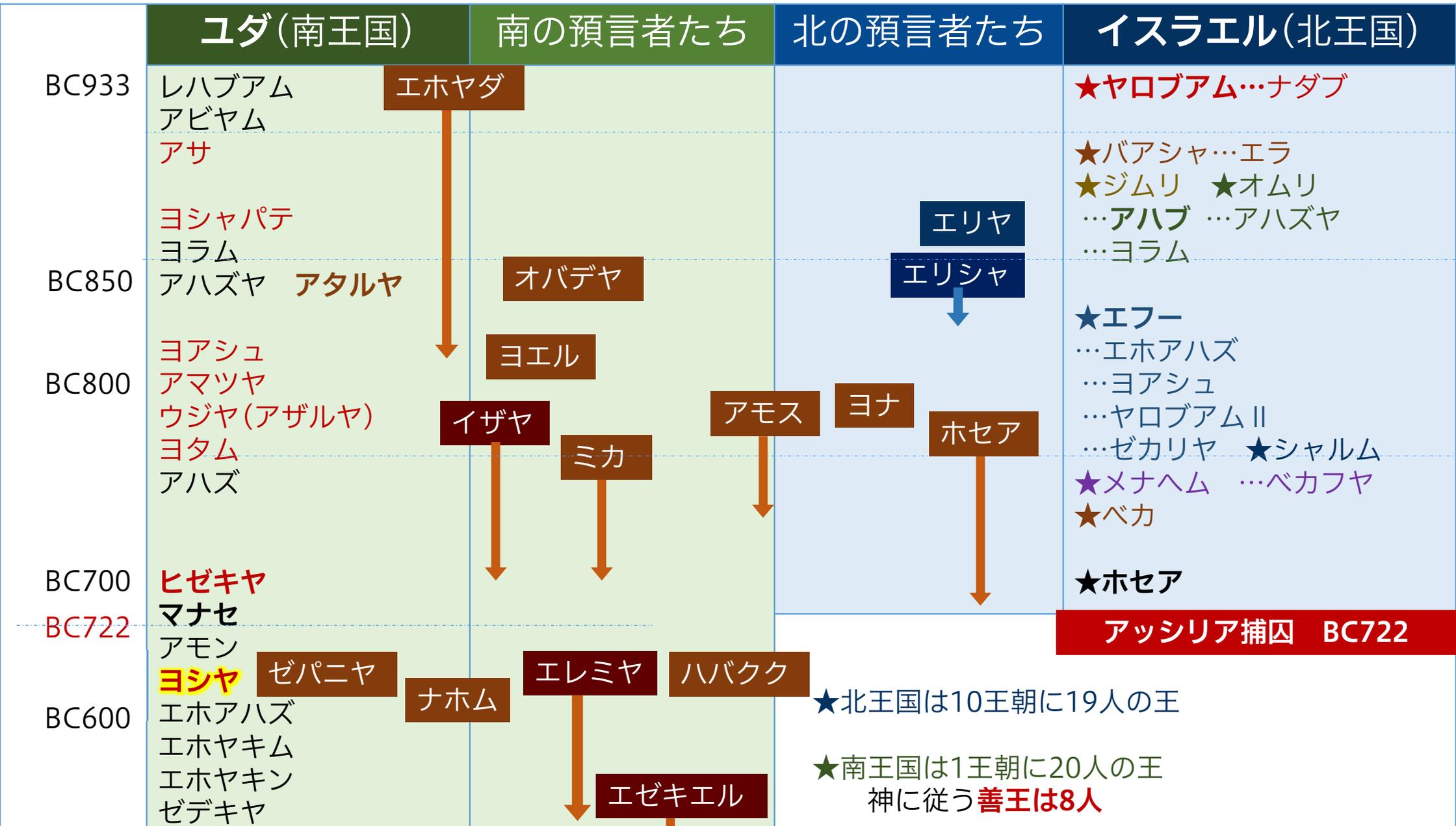
エルサレム陥落

【大患難時代】

メシア再臨

【千年王国】

異邦人の時



北王国  
イスラエル

南王国  
ユダ

アッシリア捕囚

BC722年



預言者の空白時代

ヒゼキヤ ♡  
29年

イザヤ

ミカ

マナセ ☠  
55年

アモン ☠  
2年

ヨシヤ ♡

ハバクク

ゼパニヤ

エホアハズ  
3ヶ月

31年

エレミヤ

エホヤキム ☠  
11年



エホヤキン ☠  
3ヶ月

ゼデキヤ ☠  
11年

バビロニアの侵略

バビロン捕囚



# Ⅰ. エジプトの侵略

列王記第二23章31～37節

神殿の丘・夕景

## ⑰エホアハズ 再びの罪 列二23:31~32

エホアハズ\*は二十三歳で王となり、エルサレムで三か月間、王であった。彼の母の名はハムタル\*といい、リブナ出身のエレミヤ\*の娘であった。

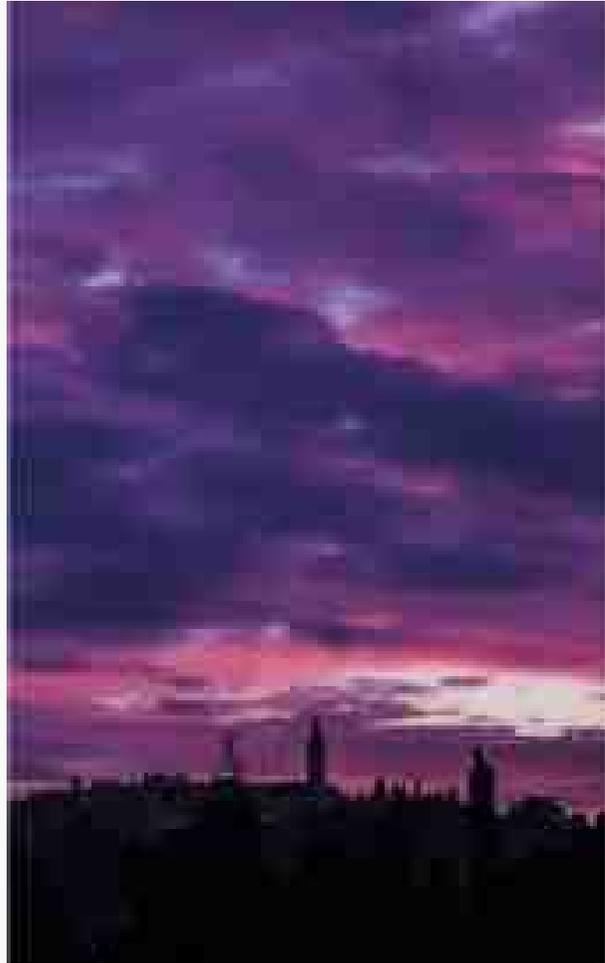
彼は、すべてその先祖たちがしたように、【主】の目に悪であることを行った。

\*“主が所有される” …ヨシヤ王の次男

\*“法の父が保護される”

\*預言者エレミヤとは別人

■敬虔な名前も、もはや皮肉でしかない。



消し去られてしまった  
父ヨシヤの功績

## ⑰エホアハズ エジプトへの朝貢 列二23:33

ファラオ・ネコ\*は、エルサレムで王であった彼をハマテ\*の地リブラに幽閉し、この国に銀百タラントと金一タラント\*の科料を課した。

\*父ヨシヤを殺した後、北上。アッシリアと共にバビロンに戦いを挑み、敗北。

\*ダビデの王冠が1タラント。ソロモンの年収は、金666タラントで、銀は価値のないものだった。

➡イスラエルが、どれだけ貧しくなっていたか。



## ⑰エホアハズ エホアハズの死 列二23:34

それから、ファラオ・ネコは、ヨシヤの子エルヤキム\*をその父ヨシヤに代えて王とし、その名をエホヤキム\*と改めさせた。エホアハズは捕らえられ、エジプトに行き、そこで死んだ。

\*エホアハズの兄。ヨシヤの長男。

エルヤキム …“神は確立された”

\*エホヤキム …“主は確立された”

■改名は、ネコの支配力を誇示すること。

エホアハズもエホヤキムも、王の実権は皆無。



## ⑱ エホヤキム 重なる悪 列二23:35～37

エホヤキムは銀と金をファラオに贈った。ただし、ファラオの要求するだけの銀を贈るために、この国に税を課さなければならなかった。彼は、ファラオ・ネコに贈るために、一人ひとりに税を割り当て、銀と金を民衆から取り立てた。

エホヤキムは二十五歳で王となり、エルサレムで十一年間、王であった。彼の母の名はゼブダといい、ルマ出身のペダヤの娘であった。

彼は、すべてその先祖たちがしたように、【主】の目に悪であることを行った。

■ エホアハズ以上の悪を重ねたエホヤキム。





## II. バビロニアの侵略

列王記第二24章1～20節

イシュタル門と復元されたバビロン

## ⑱ エホヤキム

### 第一次捕囚 列二24:1～2

エホヤキムの時代に、**バビロンの王ネブカドネツアル\***が攻め上って来た。エホヤキムは三年間彼のしもべとなったが、その後、再び彼に反逆した。

そこで【主】は、**カルデア人\***の略奪隊、アラムの略奪隊、モアブの略奪隊、アンモン人の略奪隊を遣わしてエホヤキムを攻められた。ユダを攻めて滅ぼすために彼らを遣わされたのである。【主】がそのしもべである預言者たちによって告げられたことばのとおりであった。

**\*ついに攻め込んできたバビロン(カルデア人\*)**

**→どさくさ紛れに、周辺の諸民族も侵攻!!**



**この時、預言者  
ダニエルが虜囚に**

## ⑱ エホヤキム マナセの罪 列二24:3~4

実に、このようなことがユダに起こったのは、ユダを主の前から除くという【主】の命によることであり、それはマナセが犯したすべての罪のゆえ、また、マナセが流した咎のない者の血のためであった。マナセはエルサレムを咎のない者の血で満たした\*。そのため【主】は赦そうとはされなかったのである。

\*マナセの大罪は、主に背き、残れる信仰者たち、預言者たちを大量虐殺したこと!!



北王国  
イスラエル

アツシリア捕囚  
BC722年

南王国  
ユダ



預言者の空白時代

ヒゼキヤ ♡  
29年  
イザヤ  
ミカ

マナセ ☠️  
55年

アモン ☠️  
2年  
ヨシヤ ♡  
3ヶ月  
エホアハズ

ハバクク  
ゼパニヤ

11年  
エホヤキム ☠️  
3ヶ月  
エホヤキン ☠️  
3ヶ月  
ゼデキヤ ☠️  
11年  
エレミヤ

バビロニアの侵略

バビロン捕囚

## ⑱ エホヤキム エホヤキムの死 列二24:5～6

エホヤキムについてのその他の事柄、彼が行ったすべてのこと、それは『ユダの王の歴代誌』に確かに記されている。

エホヤキムは先祖とともに眠りにつき、その子エホヤキン\*が代わって王となった。

\*“主は設立された”

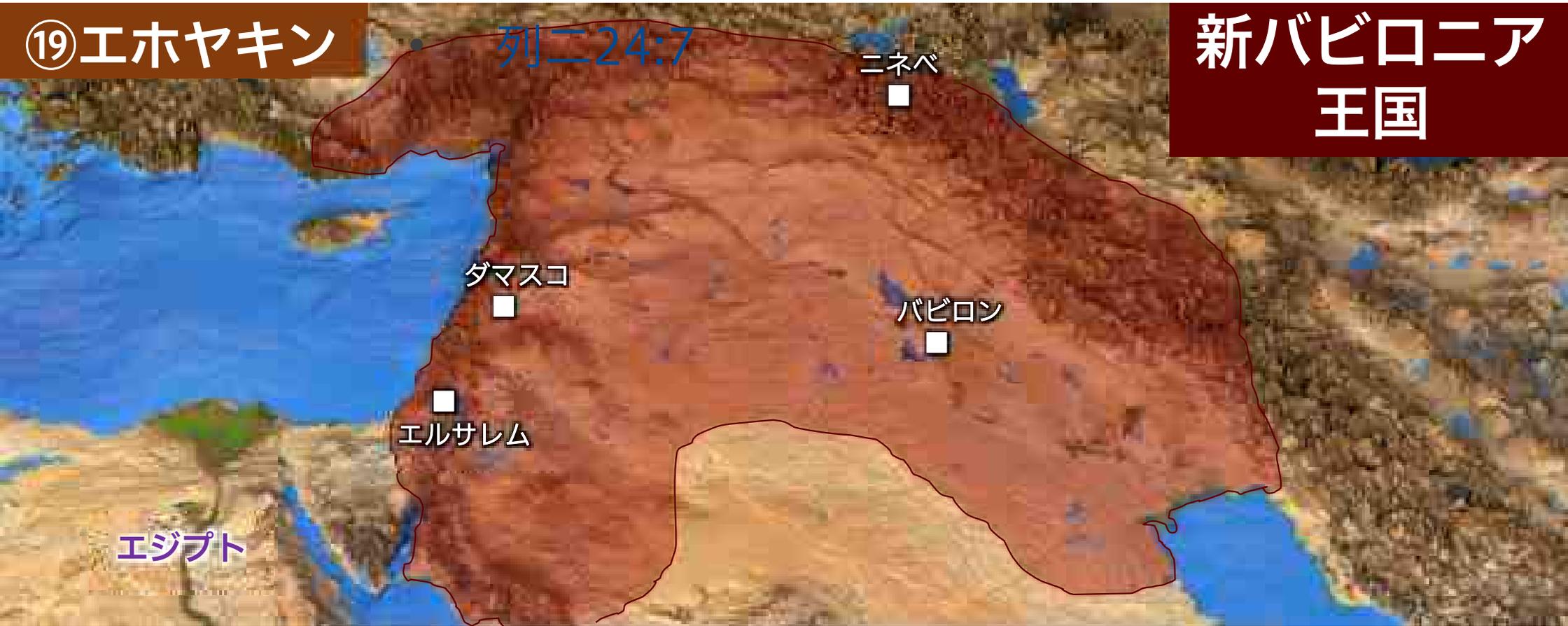
➡実際には都のさらなる破滅を招く!!



## ⑱ エホヤキン

列二24:7

## 新バビロニア 王国



列二24:7 エジプトの王は自分の国から再び出て来ることがなかった。バビロンの王が、エジプト川から大河ユーフラテスに至るまで、かつてエジプトの王に属していた全領土を占領したからである。

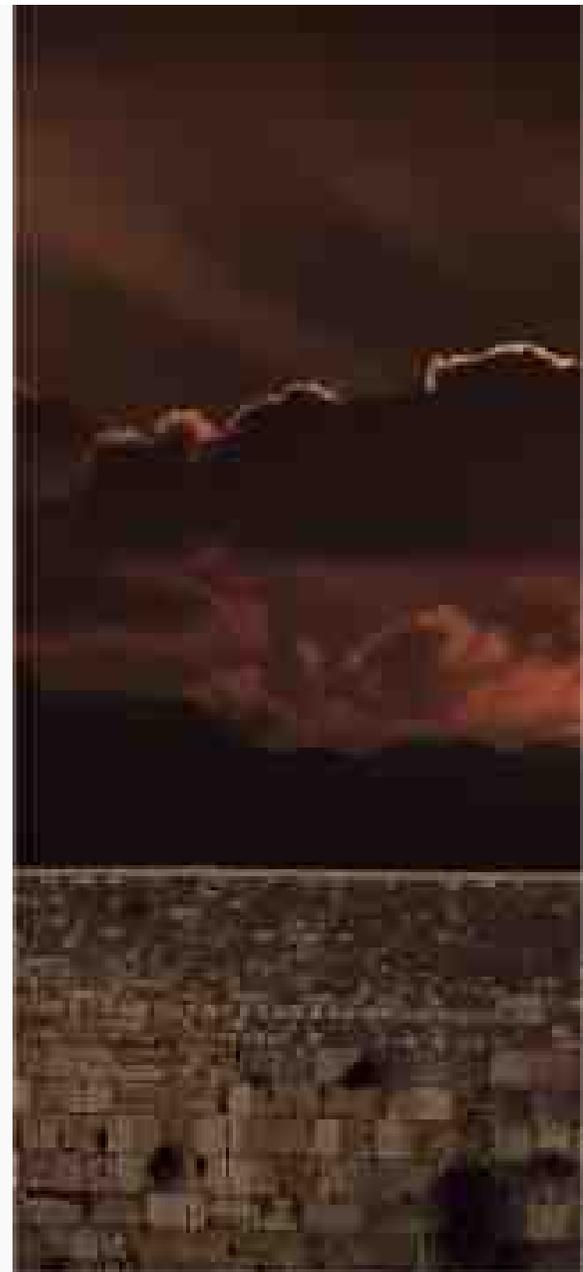
## ⑱ エホヤキン 先祖の悪の道 列二24:8～9

エホヤキンは十八歳で王となり、エルサレムで三か月間、王であった。彼の母の名はネフシュタ\*といい、エルサレム出身のエルナタンの娘であった。彼は、すべて先祖たちがしたように、【主】の目に悪であることを行った。

\*“青銅”

…偶像化されていた青銅の蛇は、ネフシュタン

■ エホヤキンも筋金入りの偶像礼拝者だった。



## ⑱ エホヤキン 包囲された都 列二24:10~11

そのころ、バビロンの王ネブカドネツアルの家来たちがエルサレムに攻め上り、**都は包囲された\***。

バビロンの王ネブカドネツアルが都にやって来たとき、彼の家来たちは都を包囲していた。

**\*バビロンによる侵攻は、段階を経て、どんどん激しくなっていた。**



## ⑱ エホヤキン 占拠された都 列二24:12~13

ユダの王エホヤキンは、その母、家来たち、高官たち、宦官たちと一緒にバビロンの王に降伏したので、バビロンの王は、その治世の第八年に、彼を捕虜にした。バビロンの王は、【主】の宮の財宝と王宮の財宝をことごとく運び出し、【主】の神殿の中にあるイスラエルの王ソロモンが作ったすべての金の用具を切り裂いた。【主】が告げられたとおりであった。



## ⑬ エホヤキン 第二次捕囚 列二24:14~15

彼はエルサレムのすべて、すなわち、すべての高官、すべての有力者一万人、それに職人や鍛冶もみな、捕囚として捕らえ移した。貧しい民衆のほかは残されなかった。

彼はさらに、エホヤキンをバビロンへ引いて行き、王の母、王の妻たち、その宦官たち、この国のおもだった人々を、捕囚としてエルサレムからバビロンへ行かせた。

■ 下層階級に治めさせ、連れ去った有能な者を利用したのが、バビロンの統治と繁栄の方法。

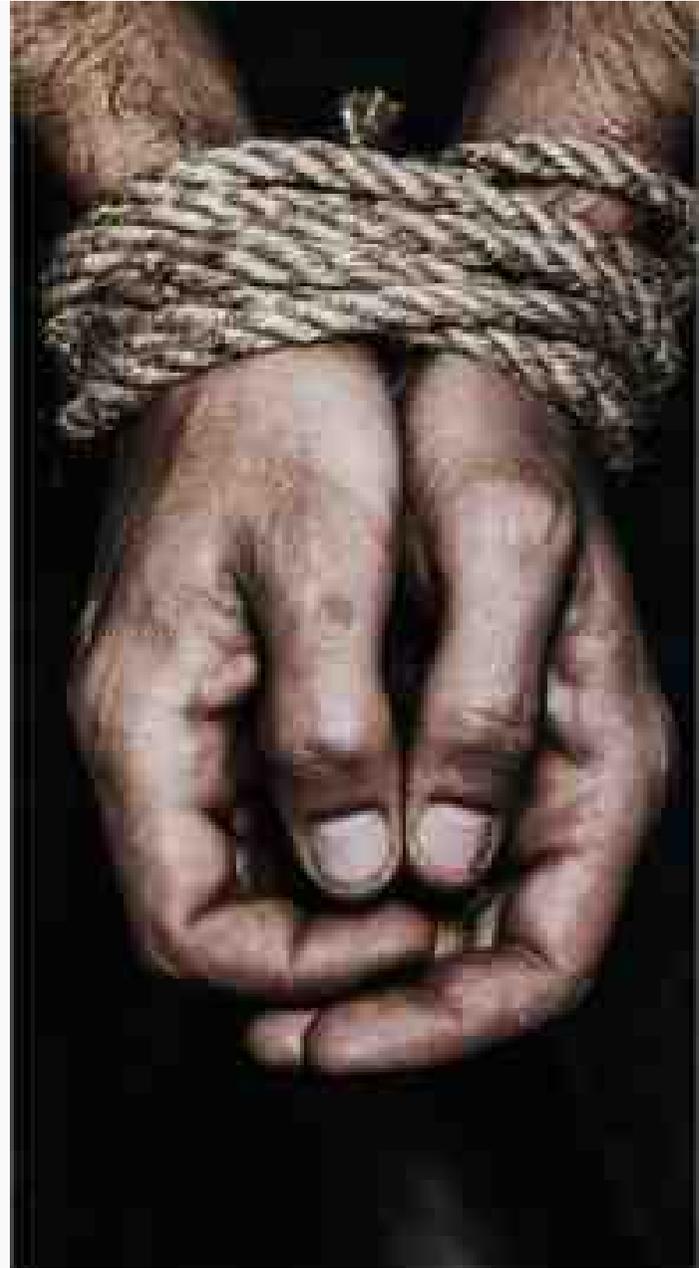


第二次捕囚に  
エゼキエルも

## ⑱ エホヤキン 捕囚の勇士たち 列二24:16

バビロンの王は、すべての勇士たち\*七千人と、職人\*、鍛冶\*千人からなる勇敢な戦士たち\*すべてを、捕囚としてバビロンへ連れて行った。

\* 占領地で捕囚とした有能な者たちを利用してバビロンは繁栄していった。



## ⑳ゼデキヤ 傀儡の王 列二24:17～18

バビロンの王は、エホヤキンのおじマタンヤ\*  
をエホヤキンの代わりに王とし、その名をゼデ  
キヤ\*と改めさせた。

ゼデキヤは二十一歳で王となり、エルサレムで  
十一年間、王であった。彼の母の名はハムタル  
といい、リブナ出身のエレミヤの娘であった。

\*“主の贈り物” \* “主は公正”

■エホヤキンには7人子がいたが…。

ゼデキヤは、エホアハズとエホヤキムの弟。



⑯ヨシヤ



⑱エホ  
ヤキム



⑰エホ  
アハズ



⑳ゼデ  
キヤ



⑱エホ  
ヤキン

正統

## ②0ゼデキヤ ゼデキヤの悪 列二24:19～20

彼は、すべてエホヤキムがしたように、【主】の目に悪であることを行った。

実に、エルサレムとユダが主の前から投げ捨てられるに至ったのは、【主】の怒りによることであつたのである。その後、ゼデキヤはバビロンの王に反逆した。

■ 義なる神である主は、悪に怒りを注がれる。

➔ 積み重ねられてきたユダの罪に、

ついに、神の厳しい裁きが下される。





### Ⅲ. バビロン捕囚

Ⅱ列23:24～30

Ⅱ歴35:15～27

## ②0ゼデキヤ 最後の侵攻 列二25:1～3

ゼデキヤの治世の第九年、第十の月の十日に、バビロンの王ネブカドネツアルは、その全軍勢を率いてエルサレムを攻めに來て、これに対して陣を敷き、周圀に壘を築いた。

こうして都はゼデキヤ王の第十一年まで包圍されていた。第四の月の九日、都の中で食糧難がひどくなり、民衆に食物がなくなった。

＊雨期のただ中の1月～翌年の乾季の7月頃まで。

➡2回の収穫期(4～6月)を逃してしまった。



バビロンのレリーフ

## ②0ゼデキヤ 逃亡劇 列二25:4～6

そのとき、都は破られ、戦士たちはみな夜のうちに、王の園に近い二重の城壁の間にある、門の道から出て行った。カルデア人が都を包囲していたので、王はアラバへの道を進んだ\*。

カルデアの軍勢は王の後を追い、エリコの草原で彼に追いついた。すると、王の軍隊はみな王から離れて散ってしまった。カルデアの軍勢は王を捕らえ、リブラにいるバビロンの王のところに彼を連れ上り、彼に宣告を下した。

\*ワジ(水なし川)の溪谷沿いに逃れたか？

エルサレム→エリコ(約20km、高低差1,000m)



## ②0ゼデキヤ 破滅 列二25:7～9

彼らはゼデキヤの息子たちを彼の目の前で虐殺した。王はゼデキヤの目をつぶし、青銅の足かせをはめて、バビロンへ連れて行った。

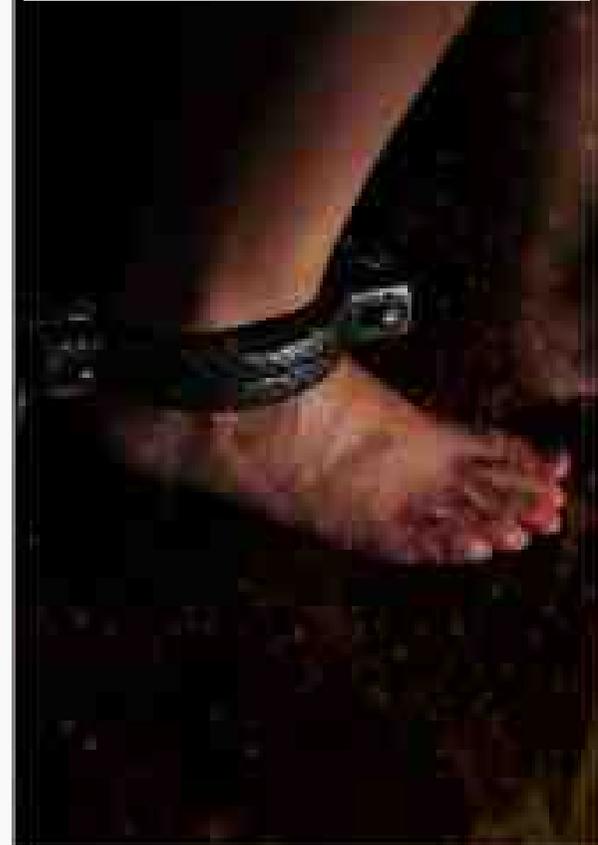
第五の月の七日、バビロンの王ネブカドネツアル王の第十九年のこと、バビロンの王の家来、親衛隊の長ネブザルアダンがエルサレムに来て、

【主】の宮と王宮とエルサレムのすべての家を焼き、そのおもだった建物をことごとく火で焼いた。

■エルサレムは徹底して破壊。神殿も焼失。

➔神の栄光はすでに去っていた(エゼ11:23)

傀儡の身で  
反逆したみせしめ



## エレミヤ書32章4～5節

ユダの王ゼデキヤは、カルデア人の手から逃れることはできない。  
ゼデキヤは必ずバビロンの王の手に渡され、口と口で彼と語り、  
目と目で彼を見る。  
彼はゼデキヤをバビロンへ連れて行く。

## ②0ゼデキヤ

・ 列二25:10～12

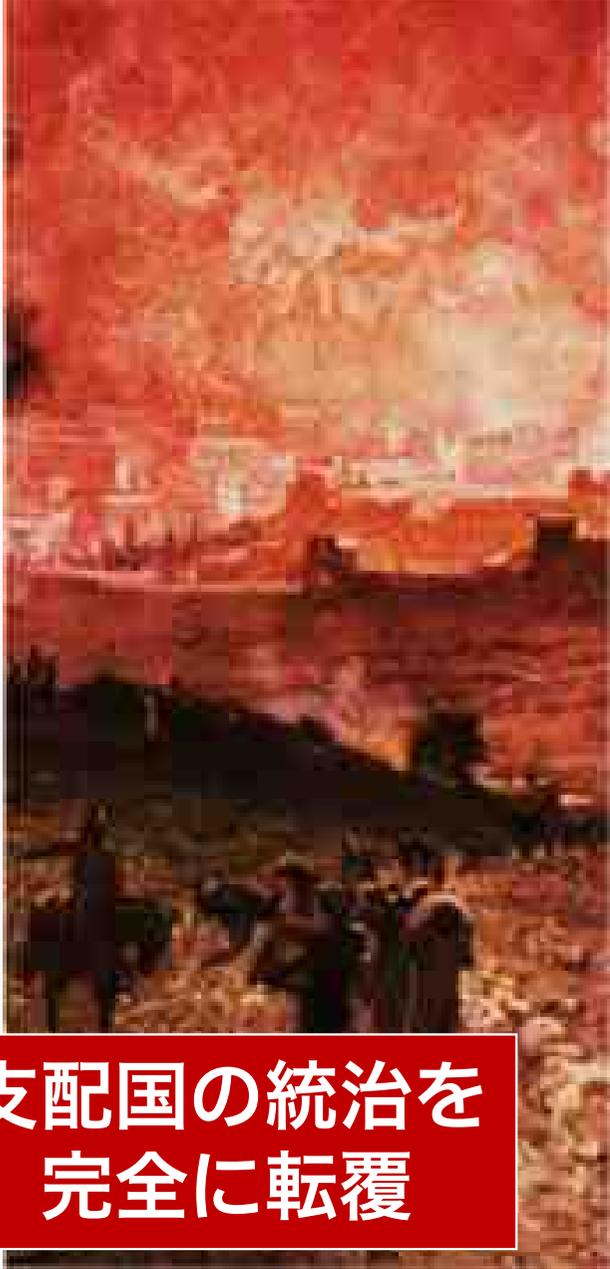
親衛隊の長と一緒にいたカルデアの全軍勢は、エルサレムを取り巻く城壁を打ち壊した\*。

親衛隊の長ネブザルアダンは、都に残されていた残りの民と、バビロンの王に降伏した投降者たちと、残りの群衆を捕らえ移した。

しかし、親衛隊の長はその地の貧しい民の一部を残し\*、ぶどうを作る者と農夫にした。

\*都は丸裸にされ、破壊され、焼き尽くされた。

\*バビロニアの政策。有力者は連れ去る。



支配国の統治を  
完全に転覆

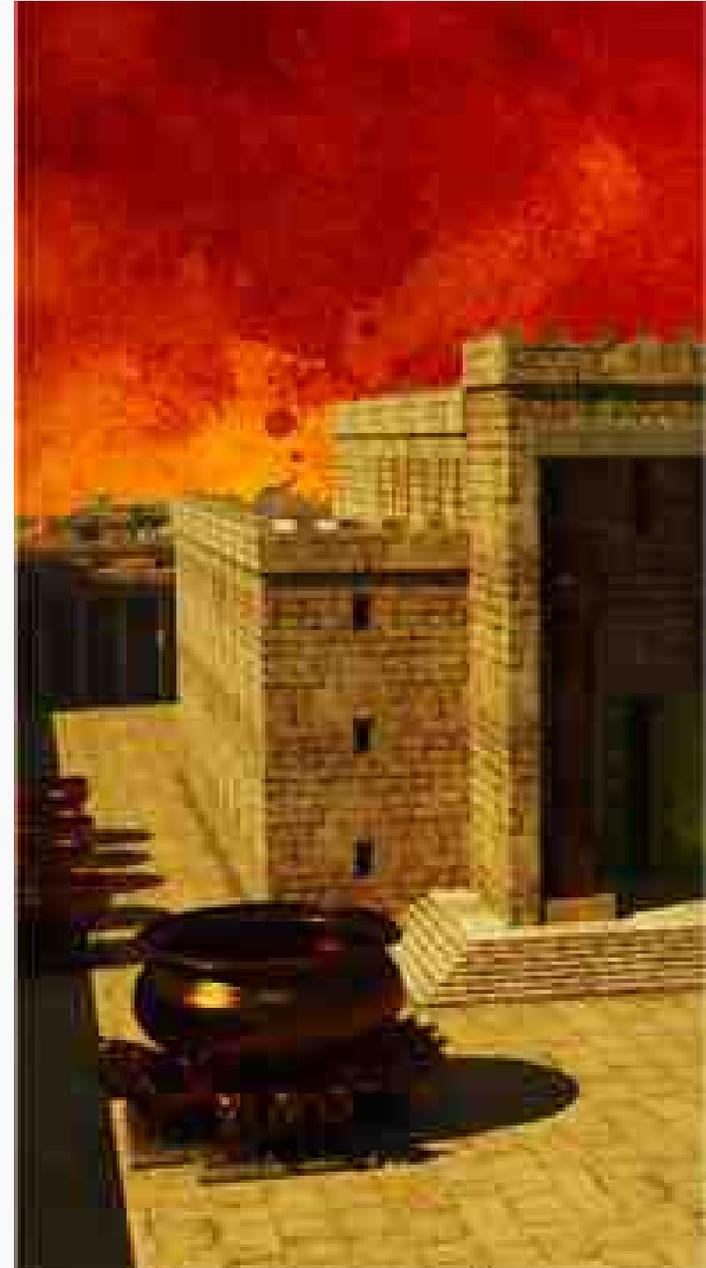
## ⑳ゼデキヤ 宮の破壊と略奪 列二25:13

カルデア人は、【主】の宮の青銅の柱と、車輪付きの台と、【主】の宮にある青銅の「海」を砕いて、その青銅をバビロンへ運んだ。

また、灰壺、十能、芯取りばさみ、平皿、奉仕に用いるすべての青銅の器具を奪った。

また親衛隊の長は、火皿、鉢など、純金や純銀のものを奪った。

- 契約の箱の行方は不明。破壊されたか？  
すでに神の栄光は去り、箱自体に意味はない。



## ②0ゼデキヤ 略奪 列二25:16~17

ソロモンが【主】の宮のために作った二本の柱、一つの「海」、車輪付きの台、これらすべての物の青銅の重さは、量りきれなかった。

一本の柱の高さは十八キュビト、その上の柱頭は青銅、その柱頭の高さは三キュビトであった。柱頭の周りに格子細工とざくろがあって、すべて青銅であった。もう一つの柱も、格子細工もこれと同様であった。

■すべての貴金属が根こそぎ略奪された。



## ②⑩ゼデキヤ 偶像礼拝者たち 列二25:18

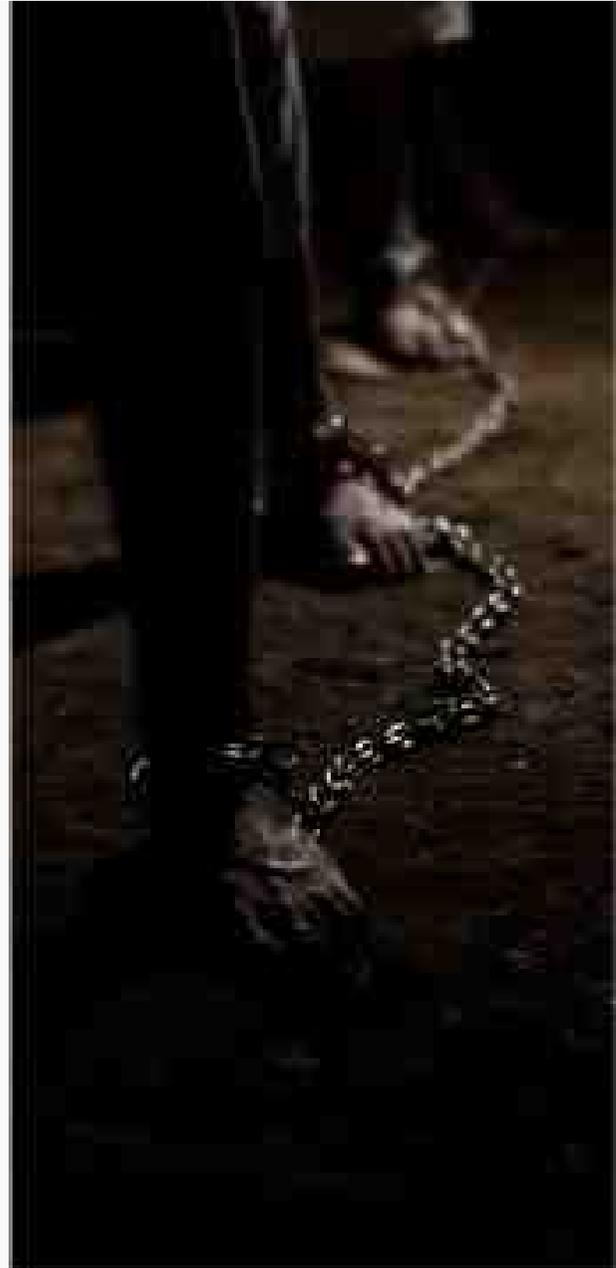
親衛隊の長は、祭司のかしら\*セラヤと次席祭司ゼパニヤと三人の入り口を守る者を捕らえ、戦士たちの指揮官であった一人の宦官\*、都にいた王の五人の側近、民衆を徴兵する軍の長の書記、そして都にいた民衆六十人を、都から連れ去った。

\*祭司長。

\*宦官の存在は異様。偶像礼拝者だろう。

■ 神殿で偶像礼拝を行っていた祭司たち。

都を汚した偶像礼拝者たちも皆、連れ去られた。



## ②0ゼデキヤ

• 列二25:20～21

親衛隊の長ネブザルアダンは彼らを捕らえ、リブラにいるバビロンの王のところへ連れて行った。

バビロンの王はハマテの地のリブラ\*で、彼らを打ち殺した。こうして、ユダはその国から捕らえ移された。

\*エホアハズが、一時ネコに捕らえられていた地。

この地域の要衝。バビロニアの手に移っていた。

■都の偶像礼拝者たちは、バビロン王の手により打ち殺された。



## ⑳ゼデキヤ 総督ゲダルヤ 列二25:22～23

バビロンの王ネブカドネツアルは、彼が残したユダの地の残りの民の上に、シャファンの子アヒカムの子ゲダルヤ\*を総督として任命した。

軍の高官たちとその部下たちはみな、バビロンの王がゲダルヤを総督としたことを聞いて、ミツパにいるゲダルヤのもとに来た。それは、ネタンヤの子イシュマエル、カレアハの子ヨハナン、ネトファ人タンフメテの子セラヤ、マアカ人の子ヤアザンヤ、彼らとその部下たちであった。

\*“主は偉大だ”…ヨシヤに仕えたシャファンの子  
エレミヤの友人(エレ39:14)



## ②0ゼデキヤ 神の言葉 列二25:24

ゲダルヤは彼らとその部下たちに誓って、彼らに言った。「カルデア人の家来たちを恐れてはならない。この地に住んで、バビロンの王に仕えなさい。そうすれば、あなたがたは幸せになる。」

- 軍の高官と部下たちは、バビロニアへの反逆を企て、ゲダルヤを指導者に担ぎ上げようと!!
- エレミヤと同じくゲダルヤは、バビロン捕囚を神の裁きとして甘んじて受け、主に悔い改めるなら、なお平安を与えられると告げた。



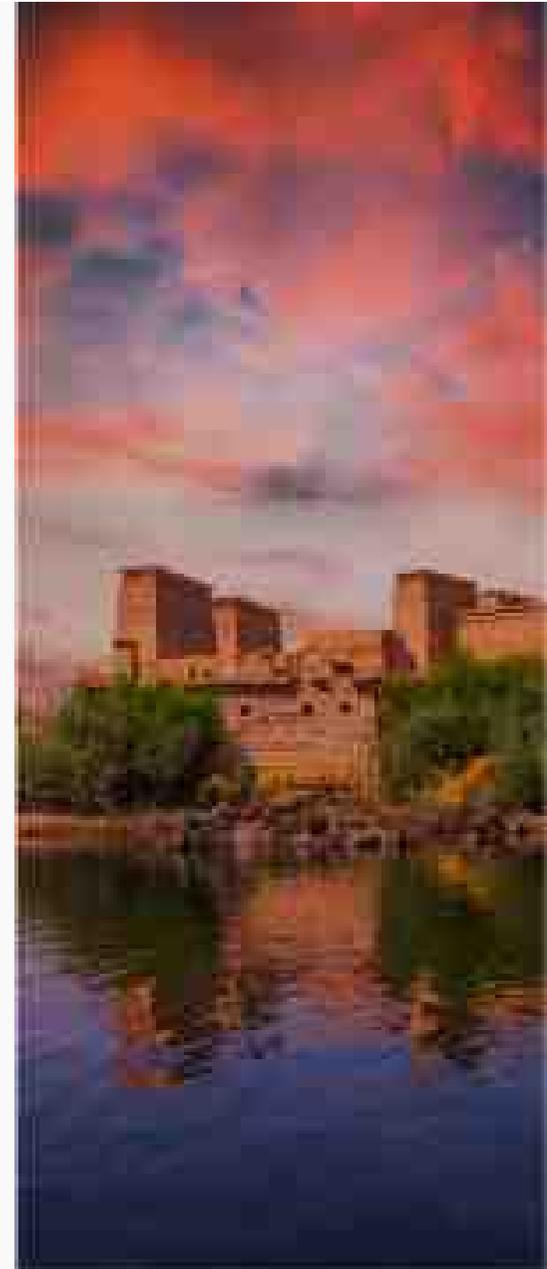
## ⑳ゼデキヤ 謀反 列二25:25～26

ところが第七の月に、王族の一人、エリシャマの子ネタンヤの子イシュマエルは、十人の部下とともに来て、ゲダルヤを打ち殺し、ミツパで彼と一緒にいたユダの人たちとカルデア人たちを打ち殺した。

そこで民はみな、身分の下の者から上の者まで、軍の高官たちとともに、**立ってエジプトへ行った\***。カルデア人を恐れたからである。

**\*エジプトで寄留者に。出エジプト以前に逆戻り。**

**→**当時、エジプトに逃れた者も大勢いたが、バビロン捕囚の民より、ずっと苦しむことに。

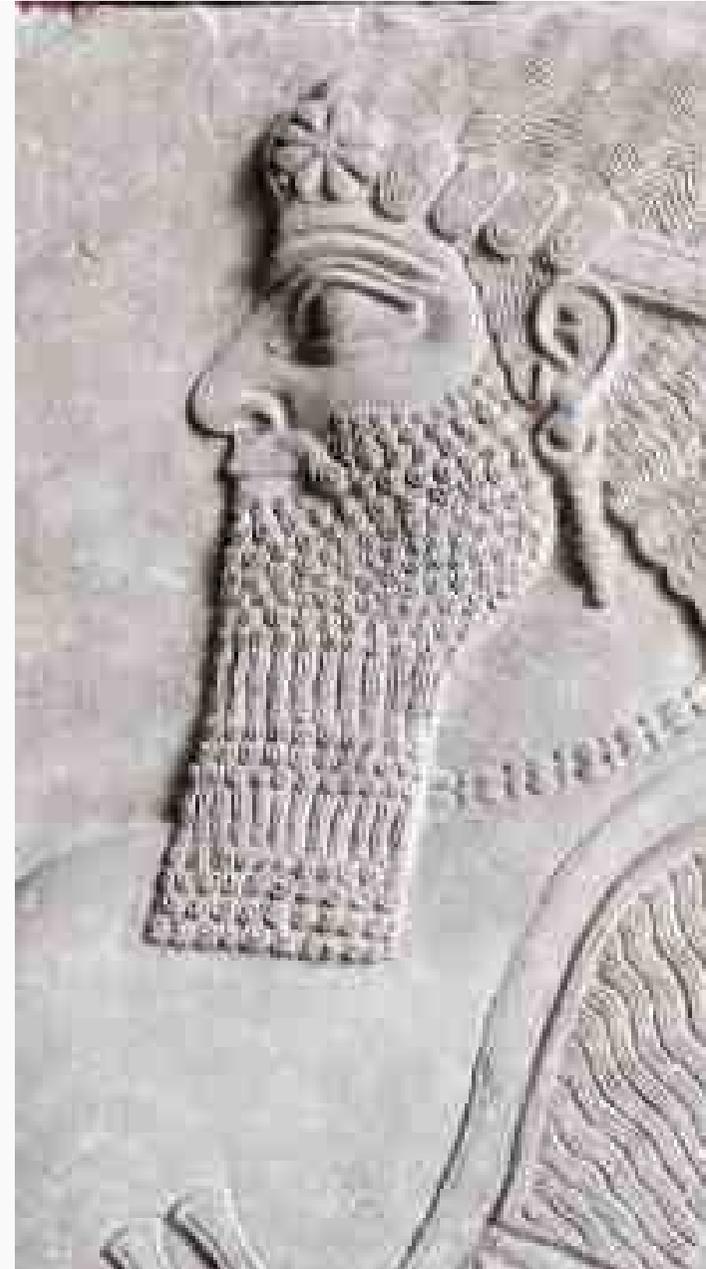


## ②0ゼデキヤ 新王 列二25:27~28

ユダの王エホヤキンが捕らえ移されて三十七年目の第十二の月の二十七日、バビロンの王エビル・メロダク\*は、王となったその年のうちにユダの王エホヤキンを牢獄から呼び戻し、優しいことばをかけ、バビロンで彼とともにいた王たちの位よりも、彼の位を高くした。

\*新王は、占領国の王の取り扱いを変えた。

➡中でも特別の待遇をエホヤキンに与えた。



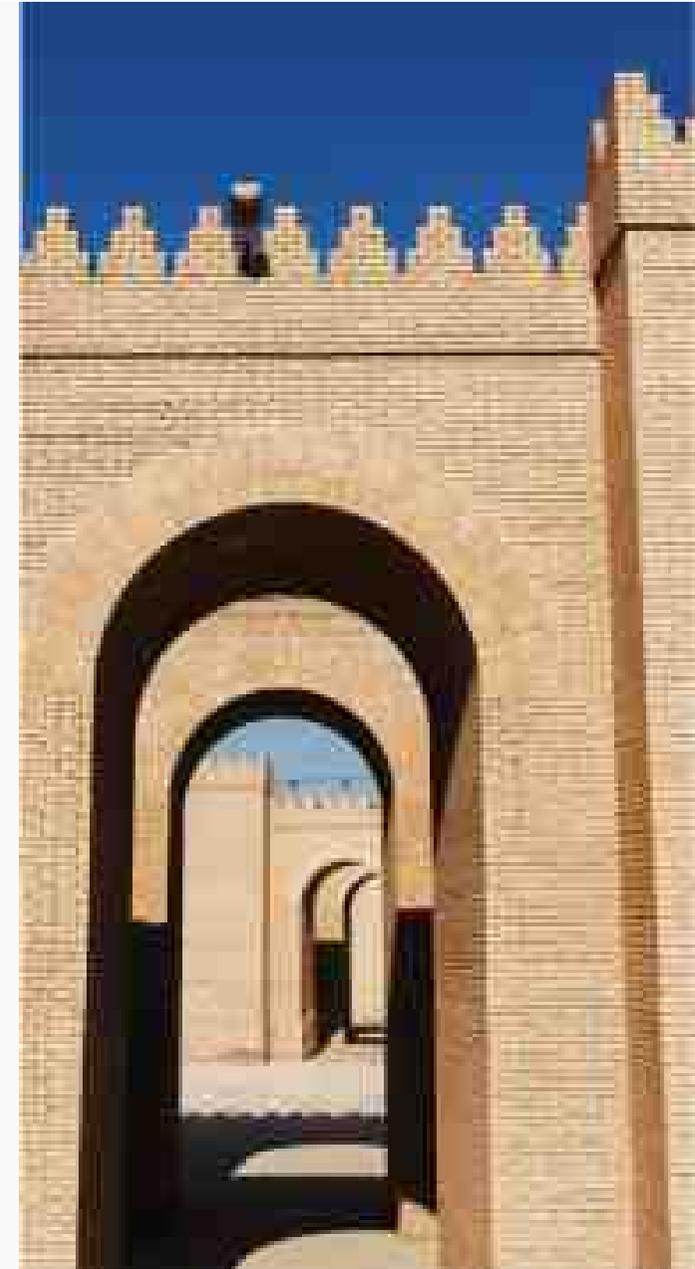
## ②0ゼデキヤ 庇護の下で 列二25:29～30

彼は囚人の服を脱ぎ、その一生の間、いつも王の前で食事をした。彼の生活費はその日々の分を、一生の間、いつも王から支給されていた。

■エホヤキン(エコンヤ)は悔い改め、  
ダビデの王の系譜は保たれていった。

【マタイの系図】 マタイ1:11～12

「バビロン捕囚のころ、ヨシヤがエコンヤとその兄弟たちを生んだ。バビロン捕囚の後、エコンヤがシェアルティエルを生み…」





### Ⅲ. まとめと適用

滅びの時代の希望は  
主の約束にしか見いだせない

バビロン・イシュタル門

## バビロニア年代記・ネブカドネツアル王のユダ侵略

■ BC605 …ネブカドネツアルが、初めてエルサレムに侵攻。

**第一次バビロン捕囚** …ダニエル

■ BC597 …エホヤキンの時、エルサレムを包囲、占拠。  
有能な市民をバビロンに連れ去る。ゼデキヤを傀儡に。

**第二次バビロン捕囚** …エホヤキン王、エゼキエル

■ BC589 …反逆したゼデキヤに対して、再びエルサレムを包囲。

■ BC587(586) …**エルサレム陥落。完全な壊滅。神殿も破壊。**  
エルサレムの住民の多くが捕囚としてバビロンへ。

**第三次バビロン捕囚** …ゼデキヤ王

## 捕囚に至るまで、繰り返された神の警告

- ①モーセの時代**、申命記、土地の契約ですでに告げられていた。  
→主に背けば、約束の地を追われることになる!!
- ②士師の時代**には、混迷を極め、ベニヤミン族は聖絶寸前に!!
- ③王国時代**は、ソロモンの偶像礼拝の罪で分裂。  
多くの預言者が、間近に迫った裁きについて、400年警告し続けた。
- ④北王国が滅亡**。危機が迫る中、さらなる警告がなされたが…。  
バビロニアによる侵略。そのただ中で重ねられた罪。そして滅亡。

## 神の裁きの原則を確認しよう

**①** 憐れみ深い神は、裁きを遅らせられる。

→ 今は猶予の時。遅い、来ないと言って、神を侮ってはならない。

**②** 神の裁きは、必ず来る。

→ いつかは人間にはわからない。神だけが知っておられる。

**③** 神の裁きは、徹底している。

→ 罪人に定められた裁きは、正確に余すところなく下される。

**④** 神の裁きの目的は、罪を正すこと。

→ 裁きの間近でもただ中でも、悔い改めた者には慰めがある。

# 約束された帰還の希望

エレミヤ書29章10～11節

まことに、【主】はこう言われる。

『バビロンに七十年が満ちるころ、わたしはあなたがたを顧み、あなたがたにいつくしみの約束を果たして、あなたがたをこの場所に帰らせる。

わたし自身、あなたがたのために立てている計画をよく知っている  
—【主】のことば—。

それはわざわざではなく平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。

## 捕囚の民の希望はどこに？

- モーセの時代、律法にも帰還の預言はすでになされていた。
- 預言者たちは、厳しい裁きの預言の折々に、回復についても述べた。
- 南北時代最後の預言者エレミヤは、捕囚の期間を70年と告げた。  
エゼキエルは、悔い改めれば、捕囚中も平安が与えられると告げた。  
→ 悔い改めて、庇護の下に置かれたエホヤキンが、そのあかし。
- 厳しい裁きも、神の約束の中の出来事。  
→ 悔い改める者には、なお神の憐れみと守りがある。

## 究極の滅びが迫る時代の希望は？

■ 世の終わりの裁き・**大患難**が迫るのが、今の教会時代。  
預言者たちが告げた、空前絶後の主の日の裁きがやってくる。

■ 主の日・大患難は、**イスラエルへの最後の裁き**。  
期間は7年と定められ、民族的回心の後に、メシアが来られる。

「しかし、選ばれた者たちのために、その日数は少なくされます。」  
マタ 24:22

■ 福音を信じた者は、**携挙**によって大患難時代を逃れることができる。

「しかし、あなたがたは、必ず起こるこれらすべてのことから逃れて、  
人の子の前に立つことができるように、いつも目を覚まして祈って  
いなさい。ルカ21:36」

## ★ 福音を信じ、携拳の希望に堅く立とう ★

- バビロン捕囚の滅びの時代も、信仰者には希望があった。世の終わりの裁き、大患難時代にも、変わらぬ希望がある。
- 福音を信じた者は、携拳され、大患難時代を免れる。この世の闇がどんなに深まり、混乱が増していこうとも、変わらない主の約束に堅く立ち続けよう。
- 今の時代は、恵みの時代、救いの時代。救われるべき最後の人がある瞬間まで、福音宣教の機会は与えられ続ける。キリストの体なる教会に連なる私は、主に支えられ用いられ続ける。

「天のお父さま。わたしは、あなたに背き、罪を重ねてきました。  
日々犯してしまう罪をも告白します。この罪をゆるしてください。

わたしは、神のみ子イエス・キリストが、

①わたしの罪を贖うために十字架で死に、

②墓に葬られ、

③三日目に復活したこと、を信じます。

預言者たちの命がけの警告にも関わらず、バビロン捕囚は起きました。

主の裁きが、必ず下される時が来ます。しかし、今は恵みの時です。

救いの福音を延べ伝える者を、主が守り、支え、導いてくださいます。

携拳の瞬間まで、ただ主の約束に信頼して、私を遣わし用いてください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」